

光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



平成29年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 総章とし あき

図つていいところです。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、JA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北

全道各地で甚大な農業被害

棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

現在もその傷跡は依然とし

て深く残っており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられています。

今後とも、JAグループ北海道は、組合員の皆様が夢と希望を持つ當農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートいたします。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生乳生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米一国間交渉の表明、EUとのEPA交渉の動きなど、我が国の農業・JA設の損壊、停電による生乳廃

にとつて先行き不透明感が増大する情勢変化があつた一年でした。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA

経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図つて参ります。

農業は重要な役割を担う生命産業

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

さて、現在JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践に基づいての「挨拶」といたし

永劫変わることはありません。

JAグループ北海道は、その責任感と自負心のもと、あらためて協同と相互扶助の精神に立ち返った上で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・JAに対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、自己改革を加速させ、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びにJAの基盤をさらに発展させ、後世に継承できるよう努力して参ります。

JAグループ北海道は、今年の干支は丁酉(ひのとり)です。一説には、丁は「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことであります。

今年はこの酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を中心のご祈念申し上げ、新年にあたつての「挨拶」といたし

からのお天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃

次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川

生産現場のための農政を



常呂町農民同盟

委員長 梅田俊則

台風被害の救済と農地復旧要請

新年、明けましておめでとうございます。

昨年中は、農民同盟の活動に対しまして、盟友及び組合員の皆様のご理解とご指導に心より感謝申し上げます。

昨年の常呂町の農業を振り返ってみると、春から夏にかけては、風の強い時期がありましたが、大きな天候のくずれも無く、農作業は順調に進み、作物も順調な生育を見せていました。小麦の収穫を無事に終えた8月中旬から下旬にかけて、4つの台風が北海道に直接上陸または接近し、河川の氾濫、畑の冠水・流亡、土砂の流入など過去に類を見

ない大規模な被害を受けました。常呂町でも、特に日吉地区と福山地区の被害は甚大なものとなってしまいました。

本同盟は、地区農連および道農連と連絡を取り合い、被害を受けた農家の救済と、農地の復旧に向けた要請行動を政府や国会議員に行つたところです。しかし被害は甚大で単年度で解決するものではなく、今年にも影響が続くとみられますので、引き続き勢力的な要請活動を行つてしまいたいと考えております。

被災を受けられた農家の皆様の一日も早い復旧を願っております。

**多面的機能
支払交付金事業を
役職員一丸で**

さて、政府は昨年11月に

「規制改革推進会議」が発表した提言を基に、新たな農業改革方針である「農業競争力強化プログラム」を正式に決定しました。内容は13の項目になっています。主な項目としては、全農の改革を中心とする、生産資材の引き下げや流通、加工の構造改革。生乳の流通・制度の改革を中心と見直し。現行NOSAー制度の見直しに基にした「収入保険制度」の導入の検討などを示しました。

本同盟は昨年より、多面的機能支払交付金事業の事を農協からの委託を受け、現在も28年度分の事務を進めていきます。この事業が農家の方々や、地域にとって有益な事業となる様に、信頼される事務作業を役職員一丸となつて、進めてまいりたいと思っています。

現在、国内の農村部は急激な高齢化が進み、農家減少による農業生産基盤の立て直しが急務な課題となっています。そうした中の改革方針の発表ですが、農業や農業関係者

の皆様の理解と納得を大前提に、生産現場が展望を持てる環境づくりを丁寧・確実に進めていく必要があります。地区農連と共に、生産現場の声を政府に届ける活動を行つていきたいと考えています。

最後になりましたが、皆様にどうぞ今年一年が、より良い一年となる事をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

農業災害を

農業災害お見舞い 申し上げます



網走農業改良普及センター

所長阿部秀幸

りました

新年あけましておめでとうございます。農業者、関係者の皆様におかれましては、平成29年を健康で迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年度は融雪が早く、春先の農作業は順調に開始されました。作柄も5月が高温で推移したことで生育が進み、平年並くやや良と判断され、期待感を大きくしていました。

6月に入ると一転して低温多雨な気候となり、生育速度は平年並みまで減速しました。

7月は平年並みに気候が推移したことで、畑作物は平年並みの生育を維持することができ、秋まき小麦収量は平年を上回りました。同様に、春まき小麦の収量も平年を上回

農業災害として、福山地区での河川氾濫により農作物が流れるなどの結果、100ha超の未収穫畠が廃耕になってしまいました。そんな状況にあっても、皆様が必死で作物管理に努められたことから、玉葱の集荷数量は農協計画を上回ることになりました。

一方で馬鈴しょは湿害による廃耕により、農協計画比を1割下回る状況になりました。また小豆の品質低下、甜菜の黒根病による腐敗により計画比6~7割の収量に止まつた

畜産においても施設維持と飼料確保にかなりの努力を要しました。ことは無念でした。

今回の台風被害は、農産物への直接的な影響はもちろんですが、農業施設の破損、作業機械類の損壊も招きました。そして、最も顕著な被害は、土壤流出などの農地災害が極めて悲惨な状況となり、国の激甚災害認定に至りました。災害復旧は関係各所の支援もあり、現在進んでいますが、農業生産面から考えれば、秋まき小麦の栽培面積が確保できない農業者もいるなど、この影響は数年をかけ正常な栽培体系に戻す努力が必要になります。

常呂地区においては、耕地面積の3割強が冠水、浸水状態となりましたが、皆様の必死の努力により最小限の影響に食い止めたと感じます。

生産技術はこれからも進歩します。現地が直面する課題解決に向けて、農業者の前向きな方向性の検討と、具体的手段への着手は積極的にすべきだと思います。

この度の災害においても、現地農業者が所有していた被災地区の上空からの映像記録は、災害実態を明確に、国・道に伝達し、支援方策につなげる一因とすることができました。

農業経営において、時勢の変化を機敏に把握し、将来像

んにく」の復興に尽力しています。更に加工かぼちゃ栽培クリーン認証作物の展開など大技小技を駆使した産地戦略を展開しています。

さらに大規模経営が展開される状況にあつても、消費者ニーズに応える産地姿勢がある限り、常呂農業には展望があり、皆様の誇れる郷土であり続けます。

今年も皆様が健康で、心身共にゆとりを実感できる年となりますように祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

んにく」の復興に尽力しています。更に加工かぼちゃ栽培クリーン認証作物の展開など大技小技を駆使した産地戦略を展開しています。

さらに大規模経営が展開される状況にあつても、消費者ニーズに応える産地姿勢がある限り、常呂農業には展望があり、皆様の誇れる郷土であり続けます。

今年も皆様が健康で、心身共にゆとりを実感できる年となりますように祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

農業技術の進歩に 積極的な対応を

食料基地としての
プライドと実力を育む

に向けての攻めの変革姿勢は、地域農業存続に重要なと感じたところです。

持続型農業を目指した常呂地区の農業展開ですが、農業者、関係者皆様の努力には敬意を表すところです。

農業展開の重要な課題として「労働力の減少」と「規模拡大」に沿つ経営変革」があると思います。幸い農業後継者の参入が多い常呂地区においては、後継者不足は緊急な課題にはなっていませんが、それでも規模拡大と相まって、農業経営方法、生産方式の変革は必要になってきてています。

常呂地区においてはいち早くスマート農業の取組がされおり、ローンを活用して生育確認、分析を先進的に取り組んでいる方がいます。このことは経営拡大と経営の合理化にどう対応すべきかを考えた時には、有効な経営手段であると思います。

生産技術はこれからも進歩します。現地が直面する課題解決に向けて、農業者の前向

ることなく、確固たる実力とプライドを育むことで、未 来ある常呂農業を内外に発信し続けるべきです。

常呂地区は一戸平均30ha程の経営地域ですが、新たな戦略として「ところピンクにんにく」の復興に尽力します。更に加工かぼちゃ栽培クリーン認証作物の展開など大技小技を駆使した産地戦略を展開しています。

きな方向性の検討と、具体的手段への着手は積極的にすべきだと思います。

この度の災害においても、現地農業者が所有していた被災地区の上空からの映像記録は、災害実態を明確に国、道に伝達し、支援方策につなげる一因とすることができました。

農業経営において、時勢の変化を機敏に把握し、将来像

さらに大規模経営が展開される状況にあっても、消費者ニーズに応える産地姿勢がある限り、常呂農業には展望があり、皆様の誇れる郷土であり続けます。

今年も皆様が健康で、心身共にゆとりを実感できる年となりますように祈念申し上げます。

新年のご挨拶とさせていただきます。



3カ年の研修を活かして 今後の活動に反映

～前編～

常呂町農協青年部

副部長所

尚 玄
な ろ

北海道農業と都市型農業の違いを感じ、見聞を広めることで今後の営農に活かすことを目的に、平成26年度から3カ年計画でスタートした道外研修。最終年の本年は11月17日～20日の4日間で実施しましたので、報告致します。

都市型農業を視察・体験

緊張な面持ちでそれぞれの思いを胸に東京の地へ降り立ちました。到着してすぐに、JA東京あおばが運営している直売所「Jぐれ村」を視察。常呂産の農産物専用の販売ブースが設けられており、当JAとの絆の深さを目当たりにしました。



● 視察先の農場にて

その後移動し、2件の農家を視察させていただき、住宅街の真ん中で綺麗に区画整理された農地や施設を見学。そこでは、その日に収穫した新鮮な野菜を自動販売機にて販売していたので、その斬新な販売方法に驚きでいっぱいでした。

その日の夜には、武部新衆議院議員との懇親会を行い、各々が農業に対する現在の政策についてなど様々な質問や意見を交換することができた貴重な時間となりました。

農業政策に携わる人たちとの出会い

その後、当JAと20年以上交流のある白石好孝氏が青果物を卸しているリストラン「J'a毛利」にてJA東京あおば青壮年部役員の皆さんとの懇食会が開かれ、懇親を深

Pに対するこれから動き、クミカン制度の廃止問題、病害虫対策など、自分たちの思いを存分に伝えてきました。短時間ではありましたが、内容の濃い有意義な意見交換会となりました。

次に、秘書の安藤綾子氏に午後からは、霞が関へ移動し農林水産省にて、地域作物課の方たちとの意見交換会を行いました。てん菜や澣原馬鈴薯の交付金の単価の見直しについて説明していただき、その後当青年部3名の経営概況の説明を行い、意見交換を行いました。

(次月号・後編へ続く)



● 武部代議士と記念撮影

案内を受け、国會議事堂内を見学し、議事堂内の食堂にて昼食を取りました。その後、自民党の総本部に行き、総裁室など普段見ることのできない場所を視察することができました。



女性部



● 石川氏による無水鍋の実演会

夢実現へ向けた 取組みを学ぶ

～女性部・フレッシュユミセス部会役員合同研修～

JAところ女性部とフレッシュミセス部会の役員合同研修が11月17日、ファーマーズハウスうえるで行われ、役員15人が参加しました。

午前中は、常呂厚生病院の大槻自然事務長と京谷幸子看護管理科長より「レスパイト入院」などについて講話頂きました。その後、全体会議を行い、日本食生活改善指導会東京本部札幌営業所の石川順司氏を招き無水鍋の実演会を行っていただきました。昼食をはさみ、午後から「ピンチは夢を叶えるチャンスの始まり」と題し、株式会社ツムラの津村千恵取締役部長より「6次産業をする上の苦悩」「夢実現へ向けた取組」など講演を行って頂きました。

今回参加した役員は「とてもためになる話を聞くことが出来た。
視察も楽しかった」と感想を話されました。



講師の得能課長

JJAどじろ女性部（岡田真理子部長）は、11月28日には女性部主催の組合員家族女性を対象とした「共済制度とクミカンの仕組みについて」と題した学習会を農協会議室で行い、30人が参加しました。この学習会は、JJAどじろと共に催したもので、講師にオホツク農業共済組合農作部の得意能和成農作課長と当JJAの信用部経営相談課の高橋誠一課長補佐を招き、畑作共済とクミカンの仕組みについて学びました。

開催にあたり岡田部長は「いよいよ来年の段取りが始まつてきました。今年は皆さん大変だった秋でしたね。今回このような共済制度があって農家は助かっているということを実感できると思います。

学習会では、パワーポイントや資料を使い「共済の仕組み」「共済・対象となるものの種類」「共済金の計算方法」「クミカンの仕組み」「農計画書の書き方」などを説明

いっぱい疑問があると思いますので質問して納得してもらえたると思います」と述べた。さらに「クミカンも北海道だけの制度です。お父さん方は質問出来ないこともあるかと思います。せひこの機会を過質問などをして良い時間を過ごしてもうれしいと思つます」と挨拶。引き続き当JAの内匠英樹管理部長は「テーマの一つであるクミカンの関係では昨今、規制改革推進会議でクミカンの廃止についての壇言という話を聞いていると申します。なかなかそういう話を曰那さんの話であり、奥さんが理解をする機会が少ないと想います。これからは女性参画の時代となりますので色々と勉強して頂き曰那さんと一緒に農業経営をして頂きたい」と挨拶しました。

参加者は「少し難しい話で
したが、聞いていくうちに
徐々に理解が出来た。いつも
お父さんしか知らないことが
多く話題についていけないが
少しでも知ることが出来てよ
かった」と感想を話しました。

び、「農業を営む上で」の共通
制度の必要性」「クミカンの
生活との密接性」を知ること
が出来ました。質疑応答の時
間には「コムギなまぐさ黒穂
病」に関する質問や「當農管
理報告表」や「當農貯金」な
どについて質問が寄せられま
した。

共済とクニカン制度を学ぶ



真剣に講演を聞く参加者

北見産農産物を海外へ

玉葱など北見産の野菜をロシア極東地域への販路拡大を目指す「北見産農産物輸出促進協議会」を発足し、11月4日に北見市内のホテル黒部にて設立総会を開きました。

設立総会には北見市の辻直孝市長をはじめ、当JAの小野寺組合長、JAきたみらいの西川組合長、ホクレン北見支所の今成支所長、北見通運株の舛川社長、北海道銀行北見支店の佐々木支店長、オホーツク総合振興局の根布谷局長が出席し、これまでの経緯報告、協議会規約の制定、役員の選任当面の事業内容について協議が行われました。

議案についてはすべて可決決定され、官民一体の農産物輸出の支援組織を立ち上げることになりました。

生産量日本一を誇る地場産玉葱を極東ロシア（ウラジオストク・ハバロフスクを拠点）へ向けて両JAが協力して今後の販路拡大を目指しています。

すでに北海道銀行の仲介により両JAの視察団が結成され、北見産玉葱の輸出の可能性を調査及び日本企業による温室栽培施設の視察などが実施され、情報収集を行っています。

北見産農産物輸出促進協議会設立総会



協議会の設立メンバー

常呂産野菜を子供たちの給食へ

JAとJAは、常呂町に住む子どもたちが

ウラジオストクへ輸出しプロジェクト

チームが現地訪問して大手スーパーとの商談を開始した結果「今すぐ販売を

したい」との回答がありました。日本

国産は品質面で安全・安心という観点

から評価が高く、販売に希望が持てる

商談となりました。

会長の辻市長は、輸出による玉葱の

販路拡大について「人口減による需要

の低下と豊作時の値崩れの2つの問題

を同時に解決できる」と想いを述べ

ました。

この取り組みは地産地消と食育を推進し地域農業への理解を深めてもいいじいを目的に

この取り組みは地産地消と食育を推進し地域農業への理解を深めてもいいじいを目的に

JAとJA主催の「新穀感謝祭」が11月22日、常呂神社で収穫を無事終了したことへの感謝として、JA役員をはじめ各生産組織の代表、関係機関約30人が出席し、玉串を奉^{まつ}奠しました。感謝祭終了後、当JAの小野寺

本年の収穫に感謝して

JAとJA主催の「新穀感謝祭」が11月22日、常呂神社で収穫を無事終了したことへの感謝として、JA役員をはじめ各生産組織の代表、関係機関約30人が出席し、玉串を奉^{まつ}奠しました。感謝祭終了後、当JAの小野寺

平成21年から行われて

いるものです。

JAは、当JAの小野寺俊幸組合長が常呂

組合支所を訪れ「生産者

者が災害を乗り越え栽培したので是非味わって下さい」と挨拶し、辻孝宗自治区長に田録

を手渡しました。

贈呈した玉葱とせんざいは、町内の小中学校

の給食や保育園のおやつなどに活用されます。

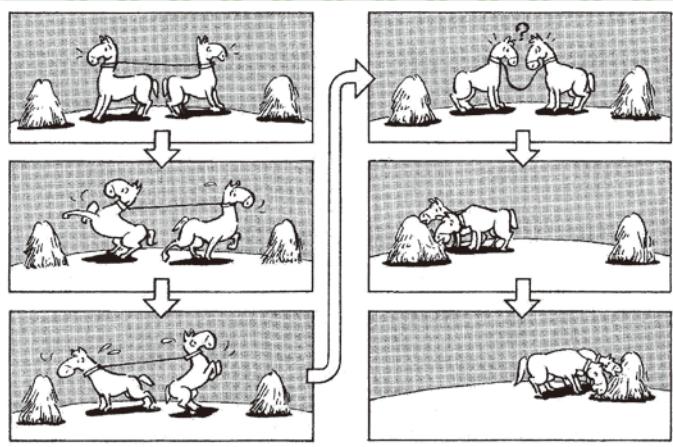


感謝の意を述べる小野寺組合長(右端)



辻自治区長(左)にタマネギを手渡す
小野寺組合長

最近、マスコミ報道等でJAに対する様々な批判を耳にします。確かにJAグループとしても解決しなければならない多くの課題があり、その解決に向けて自ら改革を進めているところです。しかし、JAに対する批判の中にはJAのこと良くな理解していない、事実無根のものが存在するのも事実です。まずは私たちのJAが果たしている意義や役割について考えてみることにしましょう。



さて、第1回目の今回は「協同」がテーマです。協同とは何でしょうか? 「共同」という言葉と読み方は同じですが、国語辞典によると、協同とは「心を一つに力をあわせて仕事をすること」とあります。ここで心を一つにすることというのが大きなポイントです。下の図を見て下さい。2頭の口バの首に紐が結ばれており、お互いが力を合わせることでうまくいくという「協同」の形を表現しています。この絵を見たある青年部員から「今はこういう時代じゃないよ。個人としてどうするかを考えるべきじゃないか」という発言がありました。その青年部員の言つており個人の自由というのは何ものにも

代えがたい大切なものです。一緒に食べるだけが協同ではない、この紐を協同の力で切るという考え方もあるのではないか?

協同の姿も時代とともに変わっていますがかもしれません。しかし、どんなに時代が変わっても、協同の考え方そのものは決して廃れることはないでしょう。いま協同という言葉の意味を1人1人が考える時期に来ています。

今こそJA!

その意義と役割

Vol. 1

ラジコンヘリで雪腐れ防除を行う

秋まき小麦の雪腐れ病防除を新富

地区防除組合（月形町）に委託を開始して17年目となりました。

例年よりも早い降雪により、作業は当初予定していた日程から大幅に遅れ、11月16日から始まりました。防除作業中に強風や夕立など天候による中断もありましたが、他社の散布業者の協力も得て、3台のラジコンヘリコプターで行い、各オペレーターの高度な技術と組合員みなさまのご協力により、21日に作業終了となりました。

今年は、実施面積333.2haとなりました。次年度以降も継続して実施して参りますので組合員みなさまの継続的な申込みをお願い致します。



新鮮なとこ産農産物を都心部にPR!

JJAとJNは11月19日から20日の2日間、東京都練馬区の光が丘公園にて開かれた「第19回JA東京あおば農業祭」に出店しました。

初日には、道外視察研修で東京を訪れていた当JA青年部も応援に駆け付け、生産者自ら都心部の消費者に販売を行いました。

農業祭では常呂産の玉葱や男爵、小豆などの農産物や玉葱スープやレトルトゼンざいなどの加工品を求める多くのお客様が来場し、2日間で約50万円を売り上げる大盛況となりました。消費者から「毎年北海道の新鮮な

野菜を楽しみにしています」と北海道産の農産物に対する生の声を聞くことができました。

道産農産物を求める多くのお客さんが足を運んで来ました

次年度も継続して出店し、常呂産の農産物を大都市の消費者にPRしていく予定です。

道産農産物を求める多くのお客さんが足を運んで来ました

次年度も継続して出店し、常呂産の農産物を大都市の消費者にPRしていく予定です。

道産農産物を求める多くのお客さんが足を運んで来ました

新年あけまして
おめでとうございます



副会長	常呂町玉葱振興会	書記長	常呂町農民同盟
他役員	大泉清友	副委員長	梅田中島
一茂直己	喜幸	他役員	伊藤憲男
同己	喜幸	一同一	穂仁

理事	久世和徳	管理担当委員長	J A と こ ろ
小野寺俊幸	猪野間亮二	川上和則	小野寺俊幸
生産担当委員長	管理担当委員長	副組合長兼信用担当委員長	代表理事組合長

組合長	常呂町加工馬鈴薯生産組合	副組合長	常呂町種馬鈴薯生産組合
他役員	林植林松	組合長	小原関谷
一直孝健	同樹雄志	副組合長	役員

監事	井原久敏	代表監事	羽石規靖
今橋剛	今橋正弘	江田哲	石山茂実
事務	役員	事務	役員

組合長	常呂町小豆生産組合	副部会長	常呂町麦生産部会
他役員	植後林松藤	他役員	小野寺深尾江田
一正靖	同仁充士	一同一	勇恭之

部会長	常呂町激原馬鈴薯部会	副部会長	常呂町甜菜対策協議会
今橋浩	福洋平	植松木	植松今橋
同均	同浩	同均	同長

副会長	常呂町4Hクラブ	副部会長	常呂町酪農振興会
他役員	羽伊佐石藤野	他役員	佐藤所猪野間
一遼崇彰	同祐宏洋	一同	僚尚尚人

部会長	常呂町南瓜生産組合	副部会長	常呂町農業担い手受入協議会
森澤正太	小野寺靖	高橋光明	林清井健志
同靖	同靖	同仁	同同

副会長	常呂町農協利用者年金友の会	副会長	常呂町農業青色申告会
他役員	林久佐藤世登	他役員	植松中内藤島
一敏百国昭	同洋子昭	一同	孝靖彦

部会長	常呂町農協女性部	副部会長	常呂町農業青色申告会
岡田真理子	佐野優子	森澤滋子	内藤島
同子	同子	同子	同同

新年あけまして おめでとうございます

資材係	資材課	施設コントラ	販売課	青果係	青果係	販売課長補佐	販売課長	生産部	金融共済係長	農業振興係長	當農企画課長	管理課主幹	管理課長	管理課審査役	管理部長	参事
他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長	他長
職員	堤望月	藤澤和弘	佐藤弘	古川孝	原樹	築田亮	金井美	木村平一	鈴木暢	武橋誠	高橋剛	今村俊	中原克	中田常	塩田義	内匠茂
同	和男	弘孝	弘樹	紀亮	樹亮	和美	英一	平一	渕宏	木暢	高剛	俊俊	枝浩	田雄	三樹	英実

初春

常呂町農協漁協
共同給油所

所長	運営委員長
他職員	猪野間信夫
一同貢	役員一同

資材課より取りまとめのお知らせ

- ①農薬 2月 6日まで
- ②春の農機部品・小農具【ガレージ2017冊子】... 2月 10日まで
- ③キャロット&フルフィル 5月 31日まで

★取りまとめ期間中は、通常時より安価となっておりますので、是非ご利用下さい。
又、ガレージ2017商品取りまとめ一斉推進を1月12日～13日の2日間の日程で予定しております。



春の新車フェア

2017年1月1日～
3月31日ご契約分まで

*対象車は、2017年1月1日～3月31日までに契約完了の車両となります。

*業務用車両はプレゼントの対象外とさせていただきます。

TOYOTA × SUZUKI × SUBARU × MITSUBISHI MOTORS の新車ご購入でもれなくプレゼント

免税	SUZUKI ignis	減税
乗用車ご成約の方は下記の中から、いずれか1つをお選び下さい。		
1 ホクレンSSポイントカード 30,000pt進呈!	2 農協観光旅行券3万円分	
3 ホクレンカタログギフト		
4 セレクト・フォー・ユー+ JCB商品券 (10,000円相当)		
5 クレルヒヤー 高压洗浄機 K3サイレント	スウィツスポーツ 折りたたみ自転車	
6 健康管理セット 血圧計+体組成計		
7 緊急防災セット 防災セット+非常食+救急パック		
8 ダイソン ハンディクリーナー		



軽トラック新車ご購入の方は
スタッドレスタイヤ
4本(ホイール付き)を
プレゼント!



御用命は資材課(54-2300)まで!



西年職員

～今年はこんな年にします～



前進あるのみ!



「健」康な一年に



笑顔の絶えない1年に！



自らのスキルアップを!



管理部審査役
仙石 幸三
S32年5月生



◆組合員の 名義変更

(変更日:平成29年1月1日)
(土佐地区)

猪野間信夫→尚人
(共立地区)
安藤 憲彦→貴彦
(豊川地区)
馬渕 茂→修
竹田 正文
→近藤 圭介

お知らせ 常呂町農業試験成績報告 技術情報交換会開催

とき 平成29年2月1日(水)

13:30～16:00(予定)

ところ 常呂町多目的研修センター 大ホール

內容

- ①町内の試験成績報告
 - ②情報交換
 - ③その他

多くの皆さまのご参加をお願い致します。

私も何気ない一鉢のさつ
合させて約80鉢ほど栽培培育
好会」の会員としてさつき盆栽の方々に楽しんで頂いており
さつき盆栽は子供同様、なかなか思うように育た
なく悪戦苦闘しております。春になると口上げ
して、今年はどんな花を
つけてくれるのか玉手箱を開けるかの様に心を熱
くさせてくれます。
ぜひ皆様もこの素晴らしい盆栽に触れる
為、各地の展示会を覗いて見てはいかがでしょうか。



広瀬職員の色鮮やかな
「さつき盆栽」

さつき盆栽と言えば年輩方々の「芸事かと思われがちですが、今は欧米を初め、世界各国で日本庭園ブームと共にさつきの「日本の美」の素晴らしさに魅了され小さなブームとなつておられます。

日本伝統文化とも言えるさつき盆栽は、古来から庶民に愛好され、品種は2,000種とも3,000種とも言われ、花も良し、樹姿も良しで、中にはあの小さな鉢に数十年、數百年経過した銘木もあります。それ以上に一本の木に赤い花、白い花、絞り花、地合い花と入り乱れて咲き、その不思議さが多くの爱好者を虜にしています。

私も何気ない一鉢のさつき盆栽に魅せられて平成10年頃よりさつき盆栽を育てて、現在は大、中、小合わせて約48鉢ほど栽培し、春には「北見さつき愛好会」の会員としてさつき展に出展し、多くの市民の方々に楽しんで頂いております。

さつき盆栽は子供同様、愛情をこめて育てますが

「たかとおとと」

JAマン
ヨーナー

発信No.37

J A職員からのオススメを
ジャンルにこだわらずに
紹介するコーナーです。

行事予定表

1月1日(日)～1月31日(火)

1月 1日(日) 元旦

1月 4日(水) 信用部仕事始め

1月 7日(土) 閉組日

1月 9日(月) 成人の日

1月10日(火) 事務所仕事始め・新年交礼会

1月14日(土) 閉組日

1月21日(土) 閉組日

1月22日(日) 農休日

1月23日(月) 第61回 女性部通常総会

1月24日(火) フレッシュミセスの集い
～25日

1月27日(金) 第12回定期理事会

1月28日(土) 閉組日

1月31日(火) 決算棚卸

第10回理事会報告

- 労働組合からの要求事項について
労働組合からの要求書に基づき
審議されました。
- 年末手当の支給について
給与規程に基づき支給することで
決定されました。
- 給与規定の一部改正について
原案の通り一部改正することで
決定されました。
- 平成28年産原料てん菜共同計算
概算払について
組合員別見込数量(t) × 10,900
円/t の概算払をすることで承認
されました。
- 平成28年度施設利用料金の徴収
について
次の通り本年度の施設利用料金を
徴収することで決定されました。
○育苗センター
加工料 2,360円/冊
○麦乾燥調製料金(暫定)
水分
～15% 13,333円/t
15.1%～18.0% 15,000円/t
18.1%～22.0% 16,666円/t
22.1%～ 20,000円/t
- 平成28年産計小豆の仮渡金に
ついて
次の通り仮渡金を支払する事で
承認されました。
○1俵あたり 20,500円
- 平成28年産計玉葱の仮渡金に
ついて

次の通り仮渡金を支払すること
で承認されました。

○コンテナ1基あたり
生食用40,000円
加工用30,000円

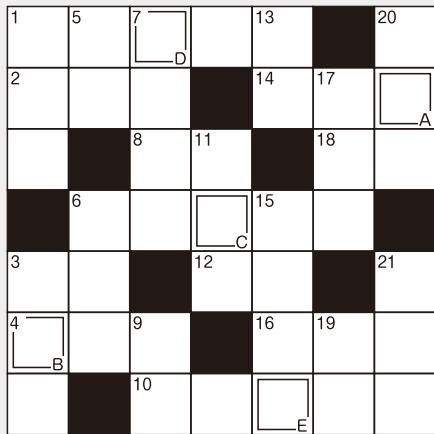
- 南瓜ヘプタクロル損害対策支給
(見舞金)について
原案の通り見舞金を支出すること
で決定されました。
- 固定資産の取得について(計画外)
次の固定資産を取得することで
承認されました。

○名 称 馬鈴薯用3tコンテナ
24基
○事業費 4,560千円
○業 者 北海道セイカン工業(株)

- 畜産クラスター機械導入事業に
係る再貸付について
原案の通り再貸付することで決
定されました。

〈報告事項〉

- 10月末仮決算報告について
- 第7回JAところ収穫“菜”的開催
報告について
- 平成27年産加工馬鈴薯の本精算
について
- 平成27年産小豆の本精算について
- 平成27年産小豆浸水被害について
- ホクレンからの異常気象に伴う
特別対策について
- 組合員の脱退について
- 農業委員会開催結果について



Crossword Puzzle

～クロスワード・パズル～

二重マスの文字をA～Eの順に並べ替えて出来る言葉はなんでしょうか?

タテのカギ

- ひょっとことよく対になります
- 英語でいうとファミリー
- 凹がオウなら凸は
- 金剛力士のこと。あうんで一対
- このわたや酒盗もこの一種
- 大豆は豆の〇〇といわれます
- 物は〇〇〇と新製品を買ってみた
- 牛乳を温めると表面にできます
- 足の末端のこと
- 京都・祇園の宴席に花を添えます
- 一年の〇〇は元旦にあり
- ダイコンや練り物、ゆで卵などをだ
して煮込んだ料理
- 正座をしていて切れるこども

ヨコのカギ

- 子どもが楽しみにしている正月の臨時
収入
- 昆布と〇〇〇節でだしを取った
- 親子や兄弟でそっくりな人も
- 正月に付きものの汁物
- 笑うと負けよ、あっぷつぶ
- がっかりしたときに落とします
- タイヤにつないでシュッシュ
- ボーダーやストライプ
- 落ち葉をかき集める道具
- ノルウェーの画家、ムンクの代表的
作品
- 忍者が指を組んで結ぶもの

先月の当選者・解答

12月号のまちがい探しの答えは、
「1、6、7、9、12」でした。

抽選の結果、次の方が当選しました。
おめでとうございます。

川崎 芳江さん(土佐)

岡部ヒロ子さん(岐阜)

遠藤 寛奈さん(福山)

※()内は地区名です。

応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えと広報誌へのご
意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。

抽選で、粗品をプレゼントします。

読者の声

★大変苦労をした年でしたが
来る年が良い年になります様に
(土佐地区・川崎 芳江さん)

★毎月知っている人の顔が見れ
るので楽しみで見ています。
(岐阜地区・岡部ヒロ子さん)

★おもづきに行ってきました。くるみもちとま
めもちが新しくできました。おいしかったです。
(福山地区・遠藤 寛奈さん)

おはら ほのか 小原 萌楓さん

H17年8月生

父:啓人さん

①お菓子作り、水泳

②小学校の先生

③いつまでも優しい気持ちを忘れずに、さらなる成長を楽しみにしています。



ふじさわ さえ 藤澤 咲笑さん

H17年7月生

父:伸光さん

①音楽を聞くこと、ピアノ

②音楽にかかる仕事

③大きな病気・ケガもなくすくすくと育ってくれてありがとう。頑張る気持ちと自分らしさを忘れずに、色々チャレンジしてみてね。咲笑が笑顔で過ごせるように、いつも応援してるよ!



いしだ ようこ 石田 陽子さん

H17年7月生

父:雄三さん

①料理(特にチャーハンを作るのが得意です)

②保育士(小さい子と遊ぶのが好きだから)

③いつも陽ちゃんには、牛舎仕事や家事をたくさん手伝ってもらって感謝です。これからもよろしくお願いします。



こんどう ふうか 近藤 風香さん

H17年4月生

父:圭介さん

①バレーボール、スキー

②保育士

③色々な事に挑戦して、頑張ってほしいです。



表紙紹介 笑顔いっぱい

僕たち私たち、夢に向かって頑張ります!

今月の表紙は、今年の干支の酉年を迎える「年男・年女」の7人のお子さんにご協力いただき、新年号の表紙を飾りました。春の新学期から夢をいっぱい抱きながら小学校6年生になります。その後、あっという間に中学、高校、大学へと進んで、社会人なっていくことでしょう。

そんな皆さんとご両親に一言いただきましたのでご紹介します。

- (1)趣味・特技 (2)将来の夢 (3)ご両親から一言)



はやし 林 豊さん

H17年11月生

父:直樹さん

①読書、剣道、あやとり

②動物園の飼育員

③酉年が巡ってきましたね。おめでとう!



これからも、健やかに、豊かな人生を…! ずっと応援しています。

酉年の子どもたち



ふわ はると 不破 悠翔さん

H17年4月生

父:秀樹さん

①ゲーム

②水族館の飼育員

③これからも、勉強・運動など一生懸命頑張ってください。



やすはら ゆな 安原 由菜さん

H17年6月生

父:裕治郎さん

①読書、ピアノ

②パソコンを扱う会社につとめたい

③笑顔で元気に育ってください。



編集後記

- 組合員の皆様、そしてご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年は当JA広報誌「光と風の大地」のご愛読いただきありがとうございました。本年も編集委員一同、皆様により一層「親しまれる広報誌づくり」に努力したいと考えておりますので、本年もどうぞ宜しくお願い致します。
- 昨年の4月から表紙を「笑顔いっぱい」と題して、組合員家族の「笑顔」を紹介してきました。2017年の最初の「笑顔いっぱい」は、オホーツク海を背景に初めて干支の酉年を迎えた7人のお子さんの笑顔で飾りました。皆さんにはそれぞれのボードに平和のシンボルである「虹」の7色を文字に塗っていただきました。7色で完成した「新年おめでとう」の文字の中には、将来に対する自分の夢、そして「穏やかな天候で、平和な世界」の願いが込められていると、シャッターを切りながら感じました。

《営農企画課：広報担当》